



お茶の水女子大学 グローバル協力センター ニュースレター

2010/06/15
2010年度 第1号

[目次]

- ✚ センター長のメッセージ…………… P1
- ✚ グローバル協力センター員のご紹介… P2~3
- ✚ 出張・調査報告（コンゴ、ケニア）… P4~6
- ✚ 「子どもと開発研究会」報告…………… P6~7
- ✚ アフガニスタン大臣来訪、センター行事 P8



センター長のメッセージ

グローバル協力センターは5年前に開発途上国女子教育センターとしてスタートしました。新生アフガニスタンに対する支援重点分野の一つとして女子教育が取り上げられ、お茶の水女子大学をはじめとする5女子大コンソシアムがその一端を担うことになりました。そのためにお茶の水女子大学に特別委員会を設置して5女子大コンソシアムによる調査団をカブールに派遣し、研修コース検討のためのアフガニスタン教育省の幹部を招聘しました。そうした準備を重ねた上に、2003年1月からアフガニスタン女性教員研修を始めました。この研修は現在も JICA 青年研修の枠組みで継続されています。

グローバル協力センターは、こうしたアフガニスタン支援をはじめとする困難な状況にある開発途上国に対して何が出来るかを調査、研究し、さらに支援を実践することを目指しています。しかし、センターはとても小さい所帯ですので自分たちだけでできません。学内、学外、そして海外の機関や人々と連携することが重要です。

センターはお茶の水女子大学の国際貢献の発信基地の一つでありたいと考えています。そのため、学生、院生、教員が気楽に出入りできるセンターでなくてはなりません。このニュースレターはセンターと皆様をつなげるツールの一つとして発行します。イベントや研究会、また海外調査の様子などをこのニュースレターでお伝えできればと思います。何卒よろしく願いいたします。

内海 成治(うつみ せいじ)

2008年10月に大阪大学からお茶の水女子大学に移りました。2009年4月からセンター長を務めています。国際協力を仕事するようになって30年になります。数えてみると3度の長期滞在を含めて150回以上、海外出張を行ってきました。最近では体力が弱ってきていますが、まだまだ、年に10回くらいは出かけています。趣味はバッハからワーグナーまでのクラシックを聴くことですが、そのための装置をいじるのも楽しみにしています。最近では時間がなくてゆっくり聴くことができないのが悩みの種です。

グローバル協力センター員のご紹介

本年度はセンター長、4名の客員研究員を含め、8名がセンター員として活動を行っています。



藤枝 修子 (ふじえだ しゅうこ)

客員研究員/ お茶の水女子大学名誉教授

理学部化学科での定年の年にアメリカで9.11事件が発生し、アフガニスタンの状況が色々報道されました。女子大学としての本学はアフガニスタンの女子教育支援に先導的に立ち上がり、現地視察や教育指導者の来日研修にも関わってきました。センターでは、学ぶ機会に恵まれない子どもたちのために、研究教育機関としての役割に微力ながら関わりたいと願っています。



駿溪 トロペカイ (するたに とろぺかい)

客員研究員

カブール生まれ。カブール大学卒業後、カブール市内高校や短期大学で英語教師に。1977年、来日。1983年筑波大学大学院英語教育研究科卒業。2000年日本に帰化。2002年4月、女性の識字教育と職業訓練を行う為、NGO「希望の学校」を立ち上げ、2003年カブール校を発足させました。センターでは、2003年以来、ダリ語等の講師としてアフガニスタン支援に関わっています。



高橋 真央 (たかはし まお)

客員研究員/ 甲南女子大学講師

2005年度から2009年度まで5年間、グローバル協力センターで講師として勤務していました。その間、五女子大学コンソーシアムや学内でのアフガニスタン支援をはじめ、ユネスコとの協同企画としてのアジア地域における女性教員の地位と状況に関する調査事業など、多様な仕事に携わりました。今後は、客員研究員として、アジア、アフリカ地域の女性や子どもの教育や女子の高等教育現場におけるグローバルなネットワークの構築などに関わりたいと思います。

桑名 恵（くわな めぐみ）



客員研究員

これまで約 15 年、国際協力に関わる NGO に所属し、コンゴ民主共和国、イラク、コソボ、東ティモール、アフガニスタン、ミャンマー、スーダンなどで、緊急人道支援、開発支援活動に従事してきました。センターでは、現場と学術の橋渡しとなれるよう、アフガニスタン支援、住民・コミュニティ主導の緊急時からの復興支援、国際協力政策について研究を進めていきたいと考えています。

森 義仁（もり よしひと）



センター員/お茶の水女子大学准教授

お茶大がアフガニスタン支援をはじめから 8 年目。その間、グローバル協力センターによる短期研修のお手伝いをしたり、アフガニスタンの女性大学教員を大学院生として受け入れてきたりしました。事がうまく運ばないことも沢山ありました。そのことを糧に、アフガニスタンの安定を願いつつ、今後のセンターの活動に生かして行きたいと思っています。

浜野 隆（はまの たかし）



センター員/お茶の水女子大学准教授

国内での教員養成や現職教員研修の経験、教育学の知見を活かし、国際教育協力事業の実施や評価、アジア・アフリカの教育開発の研究などを行ってきました。センターでは主に開発途上国における子どもの発達・幼児教育分野における研究・協力事業を JICA や NGO、国内外の大学等とも連携しつつ実施していきたいと思っています。

石井 朋子（いしい ともこ）



センター員/ 付属高等学校副校長

化学を専門にしています。2003 年 1 月に第 1 回のアフガニスタンからの研修団が来日した際、藤枝修子先生のご指導の下、担任のクラスの生徒を相手に化学実験の指導について研修を行いました。附属高等学校としてまた、一女性教員としてお手伝いできることがあればと思っています。

ケニア、コンゴ出張報告

内海 成治 (グローバル協力センター長)

2009年度は日本学術振興会（JSPS）のナイロビ研究連絡センターの外部アドバイザーを委嘱され、2回に分け、併せて2カ月、ケニアに出かけました。2度目の出張は3月12日に出発し28日に帰国しました。この期間中に、コンゴ（民主共和国）の首都キンシャサにある国立キンシャサ大学とケニアの大学で講演を行いました。それぞれに違ったテーマでしたので、準備が大変でしたが、何とか無事こなすことができました。特にコンゴは初めて訪れる国でしたので、見るものがすべて新鮮でした。コンゴは長年にわたる紛争や政治的混乱が何とか収まり、新しい国作りに向かってスタートしたところですが、いろいろな意味で大変でした。まず、長年の戦乱で都市インフラが不十分なため、ホテルがとても高いのです。普通のホテルで250ドルくらいします。停電が多いため、ホテルのクーラーはほとんど効きません。雨季のために毎日雨が降りましたが、ともかく暑かったです。

国立キンシャサ大学では日本の紹介と留学の勧めがテーマのイベントが行われました。高等教育大臣や日本大使がご出席になり、日本へ留学してこちらの大学で教授になっている方々が、日本の大学や研究について話をしました。私は、日本の教育支援と大学について30分ほど時間をもらいました。200人以上の学生が集まり、熱気にあふれた会でした。



↑ 国立キンシャサ大学での講演の様子

国立キンシャサ大学はコンゴで最も歴史と格式のある大学で、町の中心から車で30分ほど離れたキンシャサ郊外の丘の上にあります。2階建ての簡素なモルタルの建物が丘のところどころに建っています。いずれも古くて、教育・研究環境は、厳しいなと思われました。



しかし、日本に留学した先生をはじめとするスタッフは大変熱心で、大学を強化しなければならないこと、そのためには日本をはじめとする先進国への留学が必要なことを熱く語ってくれました。現在、日本の文部科学省の国費留学生の枠は3名ということです。JICAの支援も始まっていますが、今のところ医療・保健分野が中心で、教育、特に高等教育は今後の課題です。

← ケニアの大学での講演の様子

気になったことは、空港の職員や入国審査の担当官が汚職体質で、所々でチップを要求されました。それだけ生活が大変なのかもしれませんが、これが新たに国の再建を目指している国の人々かと思うと、少し悲しくなりました。複雑な思いで、キンシャサからナイロビに戻りました。(ケニアでの報告は次のニュースレターに書くことにします。)

ケニアでの調査報告

佐川 朋子(お茶の水女子大学文教育学部グローバル文化学環 4年)

4月29日から5月11日までケニアへ調査をしてきました。主に、マサイの小学校の訪問と、そこで働く女性教員の方にインタビューを行いました。特に今回はゾウが出るマサイの村で実際に2泊3日のホームステイを体験しました。

今回のメンバーは、内海先生と大阪大学の澤村信英先生、大阪大学4年の伊藤瑞規さん、私のおわせて4人です。

今回お世話になったのは、マリーさんのお宅。マリーさんはマサイの小学校でボランティア・ティーチャーとして働いています。なんと彼女は私と同年の21歳。教室で見る彼女はとても頼もしく大人で、とても同年とは思えません。

彼女はボランティア・ティーチャーで正式な教員ではないので、お給料は少なく(日本円で750円ぐらいです)、とてもそれだけでは生活していきません。それでも彼女は、自分たちのコミュニティにある小学校を大切にしたいと毎日教壇に立っているのです。そんな彼女と生活を共にしながら、お互いの国のこと、家族のこと、恋人のこと、結婚のこと、仕事のこと、将来の夢など色々なことを語り合いました。



↑マリーさんのお家
見た目より中はモダンです。



↑マリーさんとその家族

私は、去年の7月にもご一緒させて頂いたので、ケニアは2回目。しかし、ホームステイで生活を共にしながら(電気、水道、お風呂、トイレはもちろんなし!)の本格的なフィールドワークは今回が初めてでした。そのため、フィールドワークでは失敗ばかり。帰ってきて2人の先生方に色々と突っ込まれながら、自分のあまりのザルっぷりにただただ落胆し、後悔するばかり。フィールドワークの難しさを身をもって体験しました。



通学路→

マリーさんをはじめ、家族や親戚の方がとても親切にしてくださったので、2日間のホームステイはあっという間でした。ナイロビでのホテルの部屋がちゃんととれていなかったり、マサイの村ではゾウが出たり、空港で検査のため服を脱がされたりと、ハプニングは色々ありましたが、とても充実した11日間でした。これからの研究に役立てていきたいと思います。



↑マリーさんと筆者

「子どもと開発研究会」報告 第1回~第5回

国際開発における子どもの問題を、教育の分野だけではなく、広い視野で検討するため、「子どもと開発研究会」を開催しています。煎り立てのコーヒーを飲みながら、研究者、実践者、学生が活発に議論をする場となっています。これまでに開催した5回の研究会について報告します。

◇ 第1回「子どもの保健—ガーナでの経験を踏まえて—」

榊原 洋一先生（お茶の水女子大学教授）（2010年1月29日）

パキスタンやインドネシア、ネパール、ベトナム、ガーナでの経験をもとに、現場での体験やエピソード、豊富な写真を用いて、小児医療について分かりやすくお話して下さいました。途上国の医療の現実に衝撃を受けるとともに、世界一の健康国である日本ならではの支援のあり方についても考えさせられました。

◇ 第2回「遊牧民の子ども—ケニア中北部サンプルの事例—」

湖中 真哉先生（静岡県立大学教授）（2010年2月23日）

ケニア中北部の遊牧民であるサンプルを事例に、伝統文化と近代的な学校教育の対立についてお話して下さいました。「伝統と近代の二元論に基づいて文化を固定的に捉え、文化を教育の阻害要因と決め付けるのではなく、文化が柔軟に対応し、むしろ教育を推進していることに目を向けるべき。」という言葉が印象的でした。



◇ 第3回「子どもの権利」

勝間 靖先生（早稲田大学教授）（2010年3月30日）

前回までは現場での話を中心でしたが、今回の勝間先生は「権利」という最も基本的であり、重要な概念について解説して下さいました。普段は当たり前で漠然としていた権利（ここでは特に子どもの権利）というものが、勝間先生のお話を聞くことにより、明確になりました。

◇ 第4回「東南アジアにおけるEFA推進への取り組みとポストEFAに向けた展望—教育の質的向上に対するフィリピンの試み—」

北村 友人先生（上智大学教授）（2010年4月23日）

東南アジア諸国の教育の現状や域内格差、フィリピンの教育改革についてグラフなどを交えながら詳しく解説して下さいました。トップダウン型EFA(Education For All)とボトムアップ型のESD(Education for Sustainable Development)についての議論が白熱し、更に今回は早稲田大学や上智大学からも多くの学生が参加して下さいましたので、大変盛り上がりました。



◇ 第5回「ジェンダーと開発：「メコン川流域地域（GMS）における人身取引」

田中由美子先生（JICA国際協力専門員）（2010年5月31日）

GMSの人身取引を事例に、制度上の取り組みから被害者への支援事例まで包括的に、多くの写真を交えながらわかりやすく説明して下さいました。また、開発におけるジェンダーアプローチの潮流にも触れられ、子どもと関連する問題として、ジェンダーへの理解を深めることの重要性を改めて認識する勉強会となりました。参加者からの質問も多く、時間を忘れるほど活発な議論が行われました。

◇ 今後の予定

第6回研究会（2010年7月2日）「JICAと子ども支援」（仮題）

萱島信子先生（JICA人間開発部長）

第7回研究会（2010年7月30日）「ケニアで学校を作る—ムインギ東県での活動」（仮題）

景平義文先生（特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会（CanDo）ナイロビ駐在員）

勉強会終了後は懇親会も予定しております。ぜひご参加ください。

アフガニスタン教育大臣 来訪

2010年3月29日、ワルダック アフガニスタン教育大臣が本学を訪問しました。

ワルダック大臣からは、本学のアフガニスタン支援に関する謝意が述べられました。会合には、文部科学省、外務省、JICA、5女子大コンソーシアム関係者、本学学長、内海センター長、藤枝客員研究員、高橋客員研究員等が参加しました。今後のアフガニスタン支援に関する意見交換を行う貴重な機会となりました。



センター行事 (2010年3月～)

- 3月12日～28日 日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター外部アドバイザーとしてケニア、コンゴ出張 (内海)
- 3月29日 アフガニスタン教育大臣、本学訪問 (内海、藤枝、高橋)
- 3月30日 第3回子どもと開発研究会開催
- 4月16日～17日 第5回アフリカ教育研究フォーラム (名古屋大学) (内海)
- 4月23日 第4回子どもと開発研究会開催
- 4月30日～5月11日 ケニア科学技術協議会招待講演及びケニア教育調査 (内海)
- 5月14日～15日 東ティモール調査打合せ (京都、総合地球環境学研究所)
(内海、高橋、桑名)
- 5月26日～28日 韓国、Korea Institute for Gender Equality & Promotion & Education で開発途上国の女子教育の課題について講義 (内海)
- 5月31日 アフガニスタンの会、センター訪問 (内海、藤枝、駿溪、桑名)
第5回子どもと開発研究会開催
- 6月2日 5女子大コンソーシアム連絡協議会開催 (内海、藤枝)
- 6月4日～7日 国際開発学会春季大会出席 (北海道大学) (内海)

編集後記

グローバル協力センターの今年度第一号のニュースレターの発刊です。今後数カ月毎に発行していく予定です。皆様ご意見、ご感想お待ちしております！

発行： お茶の水女子大学 グローバル協力センター
編集長： 内海成治 編集： 桑名恵、佐川朋子
TEL/FAX: 03-5978-5546 Email: info-cwed@cc.ocha.ac.jp